

第9回くまげら杯

フアミリーパークゴルフ大会

東京幕別会 会員部会 松浦博明

ご存じのようにパークゴルフは幕別町が発祥の地です。そのため、十勝ふるさと会連合会主催、東京幕別会主幹で毎年くまげら杯パークゴルフ大会を開催しています。今年も第9回となり、平成27年5月23日(土)~24日(日)の2日間、平成27年5月23日(土)~24日(日)の2日間、晴れの日に、埼玉県志木市秋ヶ瀬スポーツセンター志木リバーサイドパークゴルフ場(荒川河川敷)のコースで開催されました。

来年も同じ時期に開催を予定しております。素人の運営ですが、ご希望の方は勝山会長までご連絡下さい。



今年も、恒例の郷土訪問旅行に替えて、当初の候補地の中から「富士周辺 世界遺産見学」をテーマとして、担当幹事が旅行社と入念に打ち合わせて、忍野八海方面に決定し、当会オリジナルのコースを企画した。総勢23名にて富士山の女神「サキヤ」をはじめとする歴史を知ることが出来、様々な新しい発見に出会い、新しい仲間との楽しいひとときを過ごし、「のんびり、ゆっくり、楽しい」重厚で充実した有意義な日帰り旅行となった。丸の内ビル前を出発早々車中での飲食タイムを開始。大場幹事自家栽培の枝豆・トウモロコシに賞賛、良く冷やされた飲物やメツ

富士周辺

世界遺産見学

東京旭川会 副会長

西谷内 力世



今年も、恒例の郷土訪問旅行に替えて、当初の候補地の中から「富士周辺 世界遺産見学」をテーマとして、担当幹事が旅行社と入念に打ち合わせて、忍野八海方面に決定し、当会オリジナルのコースを企画した。総勢23名にて富士山の女神「サキヤ」をはじめとする歴史を知ることが出来、様々な新しい発見に出会い、新しい仲間との楽しいひとときを過ごし、「のんびり、ゆっくり、楽しい」重厚で充実した有意義な日帰り旅行となった。丸の内ビル前を出発早々車中での飲食タイムを開始。大場幹事自家栽培の枝豆・トウモロコシに賞賛、良く冷やされた飲物やメツ



湧池 水車を背景に記念撮影

セージ付きのおつまみ配布など幹事のおもてなしに感謝の声、会長のご挨拶を皮切りに自己紹介に始まり、ふるさとのイベント紹介、座席間会話が進む中、目的地に到着です。

富士山は、2年前に「富士山」信仰の対象と芸術の源泉」として世界遺産(文化遺産)に登録され、数多くの信仰や芸術を生み出した文化財は富士山の価値を構成する25の資産として受け継がれており、その内の10強を見学した。

富士山の湧き水からできた透明度の高い八つの湧水池、忍野八海巡り、水底の景観が美しい「湧池」の水車小屋で記念撮影。富士山信仰の布教活動を支えた御師の田外川家住宅は現存する最古の家。吉田口登山道の起点となる北口本宮富士浅間神社の大鳥居は木造としては日本一大きいとのこと。

浅間神社併設の食事処「浅間茶屋」で食した名物「吉田うどん膳」は、腰の強い美味しいうどんで、和気あいあいゆっくり昼食を楽しむことが出来ました。帰りは、20代女子会員リポーターの手伝いでビンゴゲームを、旭川銘菓・ラーメンセツトや現地調達の信玄餅などの賞品をゲットして大いに盛り上がり、役員と会員が交流、満足の一日を過ごして散会した。

最後にひとことPRです。昨年9月、都内に待望の旭川市アンテナショップが「ローソン新宿イーストサイドストアエア店」にオープンしました。ぜひお立ち寄りください。

北海道標津町

東京標準会 水田栄子



北海道の最東端、根室海峡沿岸の中央部に位置する標津町は、人口5,646人(平成22年国勢調査)、当町から両腕を差し出すように左手(北東)に平成17年7月に世界遺産となった秘境「知床半島」が、右手(南東)には納沙布岬を先端とする根室半島が延びています。東側はオホーツク海・根室海峡に面し、目の前24km洋上に北方領土「国後島」を望み、平成17年11月に水鳥の繁殖保護地としてラムサール条約による登録湿地となった原生花園と野鳥の宝庫「野付半島」が当町を基部として延びているなど、世界的な景観や自然を有する風光明媚な地です。

町の面積は624.68km²、地形は釧路湿原から広がる根釧原野の終着地としての平野と知床連山の基部となる山並みなど海、山、川、大平原の多様な地勢を有し、北海道らしい雄大な豊かな自然環境のもと、秋鮭や天然ホタテ貝を主力とする漁業、これを加工原料としたイクラ、鮭加工、ホタテ製品などを製造出荷する水産加工業による水産業と、広大な牧草地で約2万頭の乳牛により牛乳を出荷する酪農業を基幹産業とする「生産の町」です。

本町は、江戸時代末期の元禄年間(西暦1700年)の古くからサケを中心とする漁業により、海から開けた町で、町名の由来はアイヌ語の「シベ・ツ」を語源とし、「サケのいるところ」と訳されています。名のおり、早くからサケによって拓かれ、戦後も率先してサケ・マス・ホタテ等の増殖事業に取り組み、秋サケの水揚げは昭和60年から15回日本一を記録するなど、「育てて獲る漁業」の先進地として、町内でイクラや鮭製品などを製造する水産加工業と連携した国内有数の「鮭の町」となっています。